

会 議 録

1 会議名

令和6年度 第4回中郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）報告（公開）

なし

（2）協議（公開）

自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について

・「(仮称) さとまるバスの運行による検証事業」について

・「子どもの い～場所開設事業」について

（3）その他（公開）

粗大ごみ等の出し方における経過と現状について

3 開催日時

令和6年7月22日（月） 午後6時から午後7時40分まで

4 開催場所

中郷コミュニティプラザ ホール

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委 員：竹内靖彦（会長）、陸川陽一（副会長）、岡田龍一、尾崎公子、
鹿島一彦（オンライン出席）、桐山和樹、坂田俊介、高橋達也、
竹内昭彦、松岡聖江、村越勝彦、陸川昇一

・事 務 局：中郷区総合事務所 高波所長、加藤次長、丸山市民生活・福祉
グループ長（教育・文化グループ長併任）、桐山地域振興班長、
津島地域振興班主事、恩田総務班長、高橋産業建設業務窓口班

長、早川税・市民生活班長、渡部福祉班長、野坂教育・文化班長（以下、グループ長はG長と表記。）

妙高警察署 交通課 山口係長

8 発言の内容（要旨）

【桐山班長】

会議の開会を宣言。

上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【竹内（靖）会長】

会議録確認を岡田龍一委員と桐山和樹委員に依頼。

報告に移る。交通規制の見直しについて、事務局に説明を求める。

【山口係長】

資料に基づき、市屋交差点の交通信号機運用の見直しについて説明。

【竹内（靖）会長】

この件については、4月の町内会長連絡会議で町内会長から理解を得たうえで、地域協議会にも説明いただいている。地域協議会として、町内会長からこの件についての意見も聞いていない。以前、江端の交通信号機運用の見直しについて説明があった際にも、個々の運転の仕方にも左右されることではあるが、中郷区内での交通事故が起きないように留意してほしいと伝えたところである。市屋交差点は、ゴミのポイ捨てが多い所でもある。信号を待つ時間が無くなると共に、ゴミのポイ捨てもなくなるといったメリットにつながると良いと思う。委員から意見はあるか。（なし）

協議に移る。自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について、地域協議会が提案した地域独自の予算事業2件のうち、最初に「(仮称) さとまるバスの運行による検証事業」について、第3回地域協議会で「中間まとめ」を協議したところだが、その後の経過について事務局に説明を求める。

【桐山班長】

資料 No1 に基づき説明。

【竹内（靖）会長】

6月28日（金）の中郷区まちづくり振興会理事会での説明の様子について、報告を求める。

【岡田委員】

(中郷区まちづくり振興会理事長の立場で) 以前から理事や事務局には、互助による輸送への転換の話伝えていた。理事会では、中郷区に必要なことであるとの認識で前向きに検討した。7月10日(水)の交通空白地有償運送運転者講習には、中郷区まちづくり振興会から私を含む運転手候補者3名が出席した。他地域からの参加者もあり、中郷区に限らず他の地域でも今後必要になってくるのだろうと感じた。

【竹内(靖) 会長】

互助による輸送への転換に向けて、実施主体となる中郷区まちづくり振興会でも前向きな検討を進めていただいている。交通空白地有償運送運転者講習は今回3名の受講であったが、11月にも予定されており、運転手候補者の人数を増やしていきたい。車両は、10人乗り車両のうちの一つ、ハイエースは受注停止で今後の見通しも立たない状況であることから、キャラバン一択となる。以前はミニバンはどうかと意見があったが、利用者の利便性を考え、10人乗り車両となる。

7月5日(金)の中郷区公共交通懇話会での様子について、中郷区公共交通懇話会会長に任命された、陸川(陽)中郷区地域協議会副会長に報告を求める。

【陸川(陽) 副会長】

(中郷区公共交通懇話会会長の立場で) 中郷区公共交通懇話会では、現行の乗合タクシーを廃止し、互助による輸送へ転換することを確認した。現行の乗合タクシー事業者も出席し、転換を後押しする意見をいただいた。このまま進んで良いと確認できた会議であった。

【竹内(靖) 会長】

委員から意見はあるか。(なし)

今後の進み方として、乗合タクシーの運行については、令和5年度、令和6年度と地域独自の予算事業に提案してきたが、令和7年度に向けては、地域独自の予算事業への提案を含め、協議を一旦終了とする。今年度の協議については、中郷区まちづくり振興会が主体となりダイヤや運行経路、運転手の手配、利用料金など、運行の具体化を検討し、地域協議会には、中郷区まちづくり振興会や、市の動きに合わせて情報共有いただき、細部について協議を続けていく。地域協議会として連携しながら、転換を見届けていくこととする。

【高橋委員】

資料No1内に「(仮称) さとまるバス運行②」とあるが、令和7年度から行う運行に近いものを組むことができるのか。平日の運行は出来るようになるのか。

【桐山班長】

「(仮称) さとまるバス運行②」の具体的なことはまだ決まっていない。高橋委員の発言の通り、実際の運行に近いものを行う必要が出てくると思うが、現行の乗合タクシー事業者との協議により決めることである。また、中郷区まちづくり

振興会が具体的な運行を検討する過程で、調査すべき事項に合わせて必要な検証運行が出てくることも想定している。

【竹内（靖）会長】

中郷区型コミュニティバス検討委員会も継続する。令和7年度から中郷区まちづくり振興会が主体となって良いスタートが切れるように、協力していきたい。

次に、もう1つの地域独自の予算提案事業「子どものい～場所開設事業」について、事務局に説明を求める。

【桐山班長】

資料 No2-1、2-2 に基づき説明。

【竹内（靖）会長】

7月12日（金）に行われた中郷小学校の学年懇談会に中郷区まちづくり振興会として出向いた地域協議会委員に説明を求める。

【陸川（昇）委員】

（中郷区まちづくり振興会理事の立場で）保護者に向けて説明を行ったが、好感を得ているように感じた。子どもが怪我をした場合の対応について質問があり、保険をかけることを説明した。また、参加者について学校にも情報共有いただき、参加予定だった子どもがスクールバスに乗ってしまわないように注意したいという意見もあった。

【竹内（昭）委員】

（中郷区まちづくり振興会理事の立場で）保護者も活動に理解している様子を感じた。見守り者が誰なのかといったことや、送迎について質問があった。

【坂田委員】

（中郷区まちづくり振興会副理事長の立場で）質問は特になく、事務局が用意した想定質問とその回答を話した。説明に対してのリアクションはなかったが、担当した学年とは別の学年の保護者からは良い感触の意見があった。

【桐山委員】

（中郷区まちづくり振興会理事の立場で）2、3個質問が出たが、その場で解決できる内容であった。質問が出たということは、参加意欲があるということではないかと感じた。

【岡田委員】

（中郷区まちづくり振興会理事長の立場で）全学年に統一した説明をするため、行政が用意したシナリオ通りに説明した。2、3個質問があり、興味を持っていただいたように感じた。自宅に送った際に保護者がいなかった時にどうするのかと

いった、帰った後の心配をしていた。自宅に送り届けるまでが中郷区まちづくり振興会の責任であると説明した。

小学生の子どもを持つ委員にも意見を聞きたい。

【陸川（陽） 副会長】

開催内容について自分の子どもに話したところ、参加したいと話していた。

【竹内（靖） 会長】

中郷区まちづくり振興会が説明し、保護者から概ね理解を得たとのことである。学校の先生からも協力してもらい、子どもにアプローチできる体制をとっていききたい。

次に、前回の地域協議会で令和 7 年度に向けて地域独自の予算事業に継続して提案するかどうかについて話が出たところだが、今日の会議で整理する。9 月から始まる事業であるため、検証結果を整理することは難しいと思うが、子どもの居場所づくりは中郷区に必要なことである。地域協議会委員改選により若手の委員が増え、保護者の目線が出た声や子どもたちの声を形にできる体制が整っている。私は、この事業を継続する必要があると考えている。前回高橋委員からの意見にもあったが、若い委員の意見を尊重し、検証結果を協議しながら継続していくのが良いと考える。一度止めてしまうと、次にスタートするときこれまでの積み重ねがゼロになってしまうため、少しずつ火種を残しながら次につなげることが大切でないか。反対意見はあるか。(なし) 継続して行うこととする。継続に向けては、互助による輸送への転換と、子どもの居場所を考える 2 つのチームに分かれて協議を進めてはどうかと高橋委員から提案を受けている。そのように進めたいと思うが、どうか。(大多数の頷きにより承認) 小学校の校長先生と話す機会があり、「この事業は良い事業であり保護者が理解することも大切だが、子どもたちがこの居場所で何を望むかが一番のポイント。大人目線でこの場所で遊んだらどうかと考えるよりも、子どもたちが、例えば片貝縄文資料館でやりたいことがあるのか、何をして過ごしたいのかといった意見を形にしてもらえるのが有難いし、それができるのが中郷ではないか」と意見をもらった。小学校 6 年生は、地域の中での自分の役割が見えてきており、楽しいことや、上手くないことなど色々感じている。そんな小学校高学年を対象にこの事業の居場所で何をしたいのかヒアリングし、それを実現させてあげるのも子どもたちにとっていい思い出になり、地域の愛情を感じる 1 つの機会になるのではないか。このことを今年度の事業に取り込むとしてももちろん良いが、学校と共同で取り組む必要性を令和 7 年度の事業実施に向けた課題として感じた。このような方向で令和 7 年度は進むこととして良いか。(大多数の頷きにより承認)

次に、前回の地域協議会で宿題となっていたアンケート項目について協議する。まずは、各委員から意見を聞きたい。

【陸川（陽） 副会長】

参加した子どもの目線、親の目線はもちろん必要だと思うが、参加していない人の意見も必要だと考えた。なぜ参加しないのか、なぜ参加できないのか、そもそも参加しなくても家で待っていることができるからなのか、と、参加していない人へアプローチをした方が、より改善につながる意見を吸い上げられるのではないかな。

【陸川（昇）委員】

参加してもらって、こんなことをしたいという意見が出てくれば一番良いと思うが、具体的な設問を設けるべきかどうかは難しいところがあると思う。1回目のアンケートでは、やってみたかったことを書いてもらおうと良いのではないかな。

【村越委員】

私の妻が保護者側で説明を聞いていたが、中郷区さとまる学校が昨年度地域独自の予算事業として行った「こ食解消で健康な身体づくり事業」は、主催者が主導で様々な体験を提供してくれて良かったが、今回の事業は見守るだけで何もしてくれないのかと話していた。子どもの主体性を尊重する事業であることを伝えたが、保護者としては歯がゆく感じているようであった。子ども自身が、放課後に友達と遊びたいから参加するというような、子どもから参加するようにならないと参加数が少なくなってしまうだろうと思った。参加者が少ないと検証もできないため、参加者が少なかった場合には、再度のPRや子ども同士が誘い合って一緒に参加できるような雰囲気づくりが必要だと思った。

アンケート項目については、参加した子どもから改善してほしい点や、友達もっと遊びたいといった普段の遊びについての子どもの要望を聞き取れると良いが、文章での回答は難しいと思うため、そこをどうするか考えなければならない。

【松岡委員】

普段の放課後の過ごし方、休日の過ごし方、公園での過ごし方を書いてもらい、各施設での開催時に意見を活用できないかと考えた。また、現在は3か所での開催となっているが、距離が近ければ回数を増やして遊びに使いたいという意見も出てくるかもしれないことから、開催場所との距離がどの程度であれば日常的に利用できるのか、開催場所でどのくらい遊びたいか、という項目を考えた。

【竹内（昭）委員】

開設場所が今回の場所以外にあった方がいいのかといった場所に関する項目、時間帯に関する項目、開催回数・開催頻度のニーズに関する項目、子どもがやりたい遊びの内容を聞けると良いと考えた。

【高橋委員】

項目は考えていなかったが、学校に出向いて説明を行ったのは保護者に対してであったと思うが、子どもに対する説明はどうなっているのか。学校から説明しているのか。また、アンケートは子ども向けなのか、保護者や関係者向けなのか。

それによって項目が変わる。保護者向けのアンケートは、初回よりも4、5回実施した後に行くべきであると思うし、子ども向けも複数回アンケートを取らなければならないと思う。月1回の開催であることから、実態に近い声が出てきにくいのではないかと考えた。村越委員の発言にもあったが、保護者からは何かやってほしいという意見は出てくると思う。そうなった時の対応はどうしたら良いのか、難しいところがある。そのような背景から、竹内（靖）会長に今後の進め方として2グループに分かれて協議を進めることを提案した。

先の話になるが、富山市の隣に行政が主体となって子どもの居場所に関する取り組みをしている村があると聞いている。村民は3,300人だが、会員が約3倍になっている図書館と隣接した場所に居場所を設置している。視察研修として行き、刺激を受けてはどうかと事務局に提案している。

【坂田委員】

1つ目に開設時間、場所、開催頻度が適切だったかどうか、2つ目に子ども・親それぞれの目線で、例えば送迎など総合的に見たときに、開催場所のうち、どの場所が良かったか・悪かったか、3つ目に参加した子ども同士のトラブルは起きると思うが、その原因や再発を防ぐ方策を考えるため、どんなトラブルが起きたのかを確認する項目、4つ目に参加後にどんな影響があったのか、という4つの項目を考えた。

【桐山委員】

先日の事業説明後の学年懇談会に保護者として参加したが、メディアの話ばかりが話題になる。ゲームやYouTubeといったメディアを利用する時間が少なくなるのであれば、参加させたいという印象を受けている。保護者向けのアンケートとして、やらせてほしい学習やスポーツのほかに、時計の読み方や買い物の仕方といった日常生活で使う学校では教えにくいことを聞きとり、地域でやれると良いと考えた。

【尾崎委員】

漠然と子どもに何がしたいのか聞きたいと考えた。私自身が今年度昔遊びクラブの担当になり、率直に子どもたちに何がしたいか聞くと、様々な意見が出てくる。全部やることはできないためいくつか絞るが、ある程度準備が必要なことも出てくる。何がしたいのか聞くアンケートは事前に取りたいと考えている。前回の地域協議会で案内のあった講座を聞きに行き、この子どもの居場所をつくる事業と中郷区さとまる学校が行っている「こ食」を解消する事業をやっていることを紹介したところ、とても褒めていただいた。夏休み後に体重が減っている子どもや土日が終わると顔色が悪かったり体重が減ったりしている子どもがいる。可能であれば、子ども食堂的なものも良いのではないかと考えた。今回は会場が限られているが、自分たちで食事を作るのも今後取り入れても良いのではないかと考えた。

【岡田委員】

アンケートは陸川（陽）副会長の発言にあったように、参加していない子ども、保護者と学校、参加した子どもと内容を変えて作成するのが良いと思う。参加した子どもの声は生の声であり、その保護者の声はまた違うものになる。参加した子どもには、また参加したいかということと、決められた内容をやるのが良いのか自由に過ごすのが良いのかということ聞き、どちらの方向性が求められているのかを探ることが大切である。参加していない子どもには、学校を通してアンケートを取ると良いと思う。参加していない子どもの保護者も、村越委員の発言にあったように、考えるところがあるのではないか。参加した立場、参加していない立場それぞれの意見を踏まえ、次年度の方向性につなげるのも1つの手ではないか。

【竹内（靖）会長】

各委員の意見は参考とする。最終的にアンケートの項目は地域協議会が決めるのか、中郷区まちづくり振興会が決めるのか。

【桐山班長】

事業提案は地域協議会であるため、ある程度の方向性は地域協議会が決め、それを中郷区まちづくり振興会が実施するイメージである。

【竹内（靖）会長】

参加者は実施日ごとに変わるため、都度アンケートを取ることとする。皆さんからの発言にもあった通り、子ども向けと保護者向けのアンケートの質問は別物になる。子どもには、楽しかった・楽しくなかったというような丸をつけるといった簡単な方法で純粋な回答を求めるものになる。文章で表現するのは高学年でも難しく感じると思う。保護者には、親目線で回答いただきたい。この事業は自由に活動できる場所の提供であり、その状況に子どもがどのように飛び込んでくるのか、保護者がどのように理解して預けてくるのかはやってみないと分からないことだが、課題意識を持ちながら進める必要がある。開催日には皆さんからも参加していただき、見守りつつ、直接会って話を聞いてもらえると良いと考える。

次に、募集チラシについて、目を通していただき、意見をいただきたい。申込書を学校へ提出し、学校が取りまとめることは了承しているのか。

【桐山班長】

教頭先生に依頼済みである。

【竹内（靖）会長】

保護者の目線で見てどうか。この紙で提出できそうであるか。

【陸川（陽）副会長】

紙の方が出しやすい人もいると思う。全7回の出欠を9月4日（水）までに提出するのか。

【桐山班長】

その想定である。

【陸川（陽）副会長】

そうなると、予定の変更も考えられるため、提出しにくく感じる。毎回出すのも大変ではあるが、全7回分を9月に決断することは、難しいのではないか。

【陸川（昇）委員】

これはこれで良いと思うが、都度出しても良いとしてはどうか。参加した人から話を聞いて、次回から参加したいという子どもが提出することも想定される。

【桐山班長】

あくまで案であるため、意見をいただき、中郷区まちづくり振興会に伝えたい。

【竹内（靖）会長】

2回目以降の開催日に間に合うように提出しても良いと一言補足することとしてはどうか。ただ、あまり先の日までこの申込書を保管してもらえるかどうかは分からない。

【岡田委員】

もう1度案内を出すことはできないか。

【桐山班長】

例えば、各回の度に出すこととするのであれば、それで良い。学期ごとにまとめて出すこととしても良い。

【岡田委員】

毎回までとは言わずとも、分けて出せると良い。

【尾崎委員】

手間になると思うが、参加した子に次回の開催日を案内し、次回の出欠を取るのはいかがでしょうか。

【坂田委員】

この申込書は目安として提出してもらい、10日や1週間前に都度これとは別に出席を出してもらった方が確実ではないか。

【竹内（靖）会長】

一旦締め切り日までに提出したとしても、子どもも保護者も3月には忘れてしまう可能性が高い。スタンプカードのような、出席日が分かるものを提示するとして、この申込書は一旦把握するものとし、中郷区まちづくり振興会と相談する。

忘れないようにしてもらえないと、来る予定の子が来ていないといったトラブルにつながりかねない。事務局、中郷区まちづくり振興会で相談してほしい。

【桐山班長】

この申込書は2学期の始業式の日配付することを想定している。提出の方法で相談だが、学校への提出物で、オンラインで提出しているものはあるのか。過去に公民館事業でオンラインによる申込みを受け付けたが、トラブルなく申込みがあった。例えば、実施日の何日か前にそれぞれ締め切りを設けておいて、オンラインによる募集としたらどうか。

【陸川（陽）副会長】

小学校の保護者はアプリを登録しており、アンケートの回答依頼が来ている時もあったため、やり方は分からないが、やろうと思えばできると思う。双方のやり取りまではいかないかもしれないが、ある程度のものでできるのではないか。

【竹内（靖）会長】

オンラインじゃない方がいい人もいるかもしれない。

【岡田委員】

紙であれば、実施日前に都度配付して取りまとめた方が早いのではないか。

【陸川（昇）委員】

学校からもスクールバスの乗車要否を確認するために参加者を把握しておきたいと意見があったため、学校と相談してみてもどうか。

【桐山班長】

誰が参加するかは学校と必ず共有する。その取りまとめ方として、紙だけで良いのか、年度末までの申込みは難しいため、紙は紙で出して、申し込みはその実施日の何日か前と設定しておき、オンライン上で申し込みをもらうのが良いのではないか。

【岡田委員】

オンライン上とすると、学校関係者以外にはアプリがないため、学校がまとめるということか。

【桐山班長】

Google フォームを使い、中郷区まちづくり振興会が受け付けるイメージである。

【村越委員】

Google のアンケートで回答するのは以前もあったため、Google アカウントがあれば誰でも見られる。

【坂田委員】

LINE を入口とするのはどうか。LINE のオープンチャットという機能では、自分で名前を設定した名前で参加できるため、誰が参加しているかが分からない状況を作ることができる。情報を流すための場として作っておき、そこに Google フォームの URL か二次元コードを流すとしてはどうか。そうすると開催日が近づいたタイミングで案内、申込みフォームの共有ができる。紙配付の手間の省略や、周囲の目を気にせずに申し込める状況を作れるのではないか。

【竹内（靖）会長】

活用できることは活用していく。

【桐山班長】

紙の案内文はこれとして、取りまとめのやり方は中郷区まちづくり振興会と事務局が相談して出すこととして良いか。

【竹内（靖）会長】

それで良い。個人情報を取り扱うため、話し合いのうえ丁寧に行っていただきたい。できれば、地域の事業であるため、学校に負担をかけないで行えるように配慮したい。高橋委員から提案のあった 2 つのグループについては、私と事務局で相談し、まとめる。中郷区まちづくり振興会とも上手くつなげる体制を作りたい。

【桐山班長】

アンケート項目について、地域振興班でも項目を考えてあるので、見ていただきたい。アンケート実施までにもう 1 度地域協議会を開く時間があるため、そこで最終的なものを固めていただき、今後地域協議会で検証できる内容に作り上げていただきたいと思うが、どうか。

【竹内（靖）会長】

事務局の提案について、どうか。（大多数の頷きにより承認）

【桐山班長】

地域振興班のアンケート項目案を配付。

この案に、今回の協議で出た項目についての意見を、具体的な質問文としていただけると進みやすい。

【竹内（靖）会長】

事務局案を参考にしながら、次回の協議会で意見を聞かせていただきたい。

本日の協議は以上である。出席の職員から連絡はあるか。（なし）

その他に移る。粗大ゴミ等の出し方における経過と現状について、事務局に説明を求める。

【丸山 G 長】

第 3 回中郷区地域協議会で竹内（靖）会長から質問のあった粗大ごみ等の出し方における経過と現状について、資料 No3-1、3-2 に基づき説明。

【竹内（靖）会長】

中郷区の住民からの意見を受け、経過と現状について説明いただいた。各家庭に「家庭ごみの分け方出し方ガイド」というガイドブックが配られていると思うが、これに則りごみ捨てをすれば問題になることもないはずである。委員も住民からごみ捨てに関する意見を聞いたら、教えてほしい。年末には粗大ごみも出るが、捨てるための移動手段がない人もいる。地域の力になれることがあれば動きたいと考えている。

【桐山班長】

配付物の確認。

資料の電子データによる配付について、3 名の委員に電子データで配付したが支障はないか。（意見なし）他の委員で希望する方がいれば、また声をかけてほしい。

前回の地域協議会で地域自治推進プロジェクトの検討状況を説明したが、これについて第 5 期、第 6 期地域協議会委員にアンケート調査をさせていただく内容が固まったため、郵送で送る。回答いただきたい。

【竹内（靖）会長】

次回の地域協議会は 8 月 26 日（月）午後 6 時から中郷コミュニティプラザで行う。定例的な日にちでの開催であるため、都合をつけて参加いただきたい。

8 月 1 日（木）に地域協議会正副会長のファシリテーション研修を行うことになっている。その後に意見交換会もあるので、各地域の声を次回の地域協議会で皆さんにも報告させていただく。

以上で、本日の地域協議会は終了とする。

9 問合わせ先

中郷区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0255-74-2411（内線 165） E-mail : nakago-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。